

オオワシ（タカ科） 全長95センチ

今年も県南地域にオオワシが飛来した。

天然記念物と絶滅危惧種に指定され、繁殖地はロシア極東部カムチャツカ半島周辺だけで世界的にも希少な猛禽類です。

越冬のため冬季間日本に飛来するが、ほとんどが北海道知床半島周辺で観察されます。しかし一部の個体が本州まで南下することから、県内でも稀に見られることがあります。

大潟村はオオワシの飛来地として毎年観察されているが、個体数は少なく探す出すことは難しいようです。



川面を睨んでいる。

11月27日、県南部の雄物川周辺でオオワシが見つかった。今季初飛来です。

横に伸びた川岸の枝に留まりじっと水面を睨んでいる姿は、まさに周囲を圧倒する存在です。魚を主食とする習性から、大物の魚を狙っているのだろう。国内最大の猛禽類であり、国内に天敵はいません。

1時間以上も動きがなく、堂々たる姿を眺めつつその場を後にした。



尾羽と両肩が白いので、すぐに判別されます。



大きなクチバシと鋭い眼光で周囲を圧倒する。



杉のてっぺんから周囲を見渡す。



他に敵はなく、睥睨する。